

## 平成 28 年度学長戦略経費（重点分野研究プロジェクト）進捗状況報告

（平成 29 年 3 月）

報告者氏名・所属	川前あゆみ・学校・地域教育研究支援センター へき地教育研究支援部門	
研究プロジェクトの名称	へき地・小規模校教育に関するプロジェクト	
プロジェクト担当者 (氏名・所属・職) ※代表者に●を付すこと	学校・地域教育研究支援センター へき地教育研究支援部門 ●川前あゆみ・へき地教育研究支援部門・部門長 ※「へき地教育研究支援部門」構成員において適宜役割を分担するものとする。	
研究プロジェクトの概要等		
<p>本プロジェクトは、本学の特色ある教育・研究活動の1つとして重点研究領域にも位置付けられている研究領域である。過去には、本学の学校・地域教育研究支援センター へき地教育研究支援部門（通称：へき研）が平成17～20年度に採択した『特色G P』においてもへき地教育研究に関する一定の成果を上げてきた。これらの研究を発展的に推進したのがH A T Oプロジェクト（平成24～27年度）の取組である。</p> <p>へき地・小規模校教育に関するプロジェクトは、第3期中期目標・中期計画【15】の「重点分野研究プロジェクト」並びに、中期計画【16】に位置づくH A T Oプロジェクトの研究成果を生かすことを目的とする。へき地・小規模校教育に関するプロジェクトを、へき研を推進母体として継続的・発展的取組を目指す。北海道教育大学が中心となってH A T O連携大学に対し、へき地教育実習とへき地教育プログラムの成果を波及させ、相互の取組の交流とさらなる情報交換を進めていく。</p> <p>とりわけ、本学の教員養成3キャンパスで推進している「へき地校体験実習」は、学校統廃合が進む中でも平成28年度は全道26市町村55校124名が受講し、平成17年度の大学再編以降の受講延べ人数は、千数百名の実績を誇る。本プロジェクトでは、これらの受講生がより充実した学びになる取組として、複式・少人数指導の教材を開発し、これまで『複式学級における学習指導の手引』や『複式授業の映像資料【算数】【社会】』を制作した。現在、「へき地校体験実習」の実習事前指導や事後指導において活用と検証を進めている。</p> <p>さらに、これらの教材を用いてH A T O連携大学への“出前授業”を開催し、地域性や学校規模等が異なる環境の中で教員養成大学に学ぶ学生が、小規模校化していく学校現場で教壇に立つ際の参考となる教材や複式授業の指導法を体系的に提示することが可能となった。本プロジェクトでは、これらの活動を継続的に連携大学と相互交流をし、教員養成大学における学部・大学院の段階に応じた教材の活用の効果を検証していく。</p> <p>そして、平成28年度に「へき地校体験実習」を受講した札幌校・旭川校・釧路校3キャンパスの学生が集い、北海道各地で基幹産業や地域性の異なる環境の中で教職を目指すことの意義を会得し、今後の教員養成段階における大学の指導課題を見出すフォーラム等を開催する。これらのフォーラム等にはH A T O連携大学や類似したへき地・複式・小規模校に関する実習を取り入れている他大学にも経年の中で参加を呼びかけ、日本の教育課題となっている小規模校化に対応していく教員養成のあり方を多角的に議論できる研究の機会を大学として担っていく。</p>		
進捗度	2	←番号を記入 1. 順調に進んでいる 2. ほぼ順調に進んでいる 3. やや遅れ気味 4. 遅れ気味
フォーラムの開催にあたっては、限られた予算の中での運用（半日日程）が求められたため、フォーラム発表に対する協議の時間を充分確保できず運営上課題が残った。実施できた内容については概ね目標を達成することができている。		

## 研究実績の概要

### 1. H A T O連携大学への“出前授業”の実施

本学が開発した『複式学級における学習指導の手引』や『複式授業の映像資料【算数】【社会】』等の教材を活用し、“出前授業”を実施した。平成28年度の実績としては、愛知教育大学教職大学院（11月16日実施）で教職大学院生を対象として行った。受講者数は31名である。また、大阪教育大学（12月21日実施）では学部2年生を中心に30名に対して実施した。その授業には大阪教育大学の教員も10名程受講され、大都市で学ぶ学生と教員に対して小規模校化していく中で少人数指導の工夫やその具体的な可能性を提示することができた。さらに、東京学芸大学（1月19日実施）では、学部2年生53名に対して実施した。

“出前授業”の受講生による感想には、「小規模校の実態を知る」「小規模校化していく中で日本の教育課題に気づく」「教職意識を喚起する」など、小規模校化していく学校教育の今後の課題や教師として必要な資質の視点など、学生が複式指導の実際から目標とする教師像をとらえていく記述が多く見られた。

### 2. へき地・小規模校教育フォーラムの開催

平成29年3月7日に開催したフォーラムには、61名が参加した。フォーラム第Ⅰ部では、本学（札幌・旭川・釧路）の学生による「へき地校体験実習」の成果発表、第Ⅱ部ではH A T O連携大学の学生による多様な実習からの学びとして各大学における実習の成果発表の相互交流を行った。さらに、へき地・小規模校教育のプロジェクト研究を拡大していくために和歌山大学にも参加してもらい、本学と同様に、へき地・複式・小規模校教育の推進と実習の成果発表を行ってもらった。5大学による発表は、教員養成大学としての具体的な取組から今後の各大学の可能性と各大学での取組課題を確認することができた。

## 今後の研究プロジェクトの推進計画

### 1. H A T O連携大学等の“出前授業”

平成28年度同様に、本学が開発した『複式学級における学習指導の手引』や『複式授業の映像資料【算数】【社会】』等の教材を活用した“出前授業”を実施し、H A T O連携大学並びに全国への普及を図る。

### 2. へき地校体験実習の実習指導等に関するH A T O連携大学との合同研修

平成29年度は、H A T O連携大学共同研究者による実習に関する研修を行う。具体的には、本学が推進する、へき地校体験実習の事前指導の実際を視察してもらい、その指導のあり方を研修会として位置づけ、各大学の実習指導並びに教員養成段階における学生の資質向上に向けた指導改善に反映させることを目的とする。

### 3. 他大学との相互交流と全国普及を目指したフォーラム

第3期中期目標・中期計画で位置づけられているH A T Oプロジェクトの発展的な取組として、本学（札幌・旭川・釧路）の学生による「へき地校体験実習」と、H A T O連携大学等の学生による多様な実習からの学びの成果について定期的に相互交流を行い、教員養成大学としての今後の可能性を確認することとしている。本プロジェクトでは、毎年学内フォーラムは実施するが、他大学を交えた交流については予算都合上、隔年もしくは数年後に向けた相互交流を計画している。

以上の主な取組を通じて、日本の人口減少社会における学校の小規模化に対応する教員養成のあり方を本プロジェクトで推進していく計画である。

## 教育現場や地域で活用可能な成果等

・大学教育の中では、教員養成段階における他校種・学校規模の違いによる実習のあり方を再構築する際の検討が可能である。

・日本の学校の小規模化に対応する複式・少人数指導方法の改善と人口減少社会における地域課題を学校教育活動とどのように有機的に融合させ教育環境を充実させていくかを検討することができる。

研究成果の公表実績

【著書】（著者、書名、出版社、発行年・・・等）

なし

【学術論文】（投稿中も含む）

（著者、表題、雑誌名、巻・号、発行年、頁・・・等）

なし

【学会発表、シンポジウム、セミナー、演奏会、展覧会、競技会、普及啓発イベント等】

（名称、開催年月日、開催場所、参加者数・・・等）

①平成28年度日本教育大学協会研究集会、平成28年10月15日開催、富山県民会館、第1分科会約25名

②H A T Oプロジェクト先導的実践プログラム部門 へき地・小規模校教育に関するプロジェクト「平成28年度へき地・小規模校教育フォーラム」平成29年3月7日（13：30～18：20）開催、本学札幌駅前サテライト、61名参加

【テキスト、報告書、研修資料等】

（名称、発行年月日、発行部数、配付場所、配布者数・・・等）

①「平成28年度日本教育大学協会研究集会発表概要集」 第1分科会『教員養成段階におけるへき地・小規模校教育の教材開発と活用の成果』、平成28年10月15日、富山県民会館

②平成28年度H A T Oプロジェクト先導的実践プログラム部門 へき地・小規模校教育に関するプロジェクト年次報告書、平成29年3月刊行予定

添付資料

・平成28年度へき地・小規模校教育フォーラムチラシ  
・フォーラム参加者事後アンケート集計

ダウンロード可能なドキュメント

『複式学級における学習指導の手引（改訂版）』  
[http://hato-project.jp/hue/mt\\_files/tebiki\\_kaitei\\_160824.pdf](http://hato-project.jp/hue/mt_files/tebiki_kaitei_160824.pdf)

関連URL

・<http://hato-project.jp/hue/project/p2.html>  
・<http://hekiken.kus.hokkyodai.ac.jp>

問い合わせ先

氏 名：川前あゆみ  
電 話：0154-44-3291  
（学校・地域教育研究支援センター へき地教育研究支援部門）  
E-mail：[kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp](mailto:kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp)